

# 平成29年度 行政評価表

担当課	都市計画課
章名	第2章健康で心安らぐまちに暮らす
節名	第3節ともに支え合う地域福祉の充実
施策名	1. 安心して暮らせる仕組みづくり

施策の内容	目指す姿	ともに支え合い、人がつながり、交わりのある地域づくりが進められています。
	現状と課題	<p>本町ではふれあい福祉センターを拠点に、地域福祉を担う民生委員・児童委員や社会福祉協議会を中心に、様々な福祉活動に取り組んでいます。しかしながら、核家族化、共働き夫婦の増加と扶養意識の変化に伴い、家庭や地域で支え合う機能が低下し、高齢者等の孤立に対する福祉サービスの需要が増えています。加えて、既存の行政サービスだけでは対応しきれない様々な生活課題が増えています。</p> <p>それぞれの家庭や地域が互いに身近な問題として、日常的に助け合える行動につながるよう啓発に努め、地域福祉活動の活性化を進めていく必要があります。社会福祉協議会では、ボランティアなどの協力を得て、高齢者とのふれあい交流など多くの事業を実施していますが、一層のふれあい、支え合いの地域づくりの促進が課題となっています。</p> <p>また、行政サービスなどの情報が、すべての町民に届くよう、わかりやすい情報提供や相談体制が必要となっています。</p>

まちづくり目標値	指標名		現状(平成25年度)
	(1)		
	(2)		
	(3)		
	(4)		

目標値への推移		平成27年度実績	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度実績	目標(平成31年度)
	(1)					
	(2)					
	(3)					
	(4)					

行政評価表(事業評価一覧)合計	当初予算額	決算額 (単位:千円)				
		決算合計	国・県補助	地方債	その他特定財源	一般財源
	2,000	1,943	1,943	0	0	0

今年度の施策達成度	A	A	施策が既に完了した。見直しや改善を行い最善に近い。(進捗率71~100%)
		B	施策の見直し、改善等の検討余地がある。(進捗率31~70%)
		C	施策を検討したが効果が上がらない。遅れている。未実施。(進捗率0~30%)
施策達成度の理由(施策に対する今年度の実績及び効果)	町営住宅を適切に維持管理することで、住宅に困窮する低額所得者に対し、低廉な家賃で安心して暮らせる住宅を提供することができた。		

施策実現のための課題	施策を取り巻く環境の変化について	町営住宅は良好な住環境が整備されており、また家賃も低廉であることから、入居希望は依然として高く、町民からの問い合わせも多い。
	住民ニーズの変化について	町営住宅は良好な住環境が整備されており、また家賃も低廉であることから、入居希望は依然として高く、町民からの問い合わせも多い。
	展開した事業は適切であったか	適切な維持管理を行うことにより、良好な住環境を提供することができた。
	施策を達成するうえでの障害について	町営住宅への入居希望は多いが、施設の設置・管理には多額のコストが必要であり、新たな町営住宅の増設は困難であるため、公営住宅への入居希望者に対しては、県営住宅を案内している。

次年度以降における施策の具体的な方向性	引き続き、町営住宅の適切な維持管理を行い、良好な住環境を確保する。
---------------------	-----------------------------------

第6次行政改革大綱に基づく取組の進捗状況	住宅に困窮する低額所得者に対し、低廉な家賃で安心・安全に居住できる住宅を提供することができた。
----------------------	---

# 平成29年度 行政評価表

担当課	都市計画課 公園緑地係
章名	第4章 緑あふれるにぎわいのあるまちに暮らす
節名	第1節 緑の快適空間づくり
施策名	1. 公園整備の推進

施策の内容	目指す姿	緑豊かな住環境の中で身近に水と緑とふれあうことができる、生態系に配慮したまちづくりが進められています。
	現状と課題	<p>町民意識調査では、本町に住みたいと思った理由として「自然環境が豊かである」が最も多くあげられています。町内には屋敷林や平地林、農地などの緑、綾瀬川及び原市沼川の水辺があります。保存樹林や「さいたま緑のトラスト保全地」の指定など地域の特性を踏まえた緑の保全と緑化を推進しています。緑豊かなまちが本町の特徴であり魅力ともなっていることから、町民と協働した緑の保全・活用が大切となっています。また、町内に残された農地は可能な限り保全・活用し、本町らしい田園景観のある緑豊かなまちづくりを推進していく必要があります。</p> <p>公園は、県内最大のバラ園を有する総合公園である町制施行記念公園や近隣公園、街区公園などが整備されています。町制施行記念公園のバラ園には、毎年たくさんの方々が訪れます。一方では、公園の中には設備や遊具が老朽化しているものもあり、計画的な更新が必要となっています。今後は、これらの公園を地域のニーズに応じたものへとリニューアルしていく必要があります。</p>

まちづくり目標値	指標名		現状(平成25年度)
	(1)	都市公園の供用開始面積	22.8ha
(2)			
(3)			
(4)			

目標値への推移	平成27年度実績	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度実績	目標(平成31年度)
	(1)	22.8ha	23.5ha	23.5ha	
(2)					
(3)					
(4)					

行政評価表(事業評価一覧)合計	当初予算額	決算額 (単位:千円)				
		決算合計	国・県補助	地方債	その他特定財源	一般財源
	147,859	145,136	15,072	24,600	12,173	93,291

今年度の施策達成度	A	A	施策が既に完了した。見直しや改善を行い最善に近い。(進捗率71~100%)
		B	施策の見直し、改善等の検討余地がある。(進捗率31~70%)
		C	施策を検討したが効果が上がらない。遅れている。未実施。(進捗率0~30%)
施策達成度の理由(施策に対する今年度の実績及び効果)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・公園維持管理関係の事業について</li> <li>①遊具等の施設:緊急性・重要性の高いものについて、修繕等を行い、安全性を向上させた。</li> <li>②植栽関係:緑地の充実に取り組みながら、適切な剪定・伐採を行い、防犯性の向上に努めた。</li> <li>・バラ園運営事業等について</li> <li>①バラ園の適正な運営を図られた。</li> <li>②バラマスターズのバラ園管理を支援した。</li> </ul>	

施策実現のための課題	施策を取り巻く環境の変化について	施設の老朽化対策について、長寿命化計画の策定等、計画的な事業展開の必要性が高まっている。
	住民ニーズの変化について	多くの公園で樹木の成長が進み、周辺の住宅地で落ち葉や日照などの住環境に影響がでている。また、近年の大風や豪雨等の気象現象により、公園の土ほこり対策や園内の土砂流出防止等の新たな対策が求められている。
	展開した事業は適切であったか	公園の適切な維持管理により、安全で快適な利用を図られた。
	施策を達成するうえでの障害について	公園利用者と近隣住民のニーズの違いから、利害が対立するケースも生じており、運営が難しくなっている。

次年度以降における施策の具体的な方向性	<p>緊急性・重要性の高い事案を優先的に公園整備・維持管理を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①公園遊具等の適切な修繕や入れ替え</li> <li>②中部公園の全面開放に向けた整備</li> <li>③魅力あるバラ園づくり</li> </ul>
---------------------	---

第6次行政改革大綱に基づく取組の進捗状況	バラ園入園料の料金改定を行い、収入増を図った。
----------------------	-------------------------

# 平成29年度 行政評価表

担当課	都市計画課 公園緑地係
章名	第4章 緑あふれるにぎわいのあるまちに暮らす
節名	第1節 緑の快適空間づくり
施策名	2. 緑の保全と創出

施策の内容	目指す姿	緑豊かな住環境の中で身近に水と緑とふれあうことができる、生態系に配慮したまちづくりが進められています。
	現状と課題	<p>町民意識調査では、本町に住みたいと思った理由として「自然環境が豊かである」が最も多くあげられています。町内には屋敷林や平地林、農地などの緑、綾瀬川及び原市沼川の水辺があります。保存樹林や「さいたま緑のトラスト保全地」の指定など地域の特性を踏まえた緑の保全と緑化を推進しています。</p> <p>緑豊かなまちが本町の特徴であり魅力ともなっていることから、町民と協働した緑の保全・活用が大切となっています。また、町内に残された農地は可能な限り保全・活用し、本町らしい田園景観のある緑豊かなまちづくりを推進していく必要があります。</p> <p>公園は、県内最大のバラ園を有する総合公園である町制施行記念公園や近隣公園、街区公園などが整備されています。町制施行記念公園のバラ園には、毎年たくさんの方々が訪れます。一方では、公園の中には設備や遊具が老朽化しているものもあり、計画的な更新が必要となっています。今後は、これらの公園を地域のニーズに応じたものへとリニューアルしていく必要があります。</p>

まちづくり目標値	指標名	現状(平成25年度)
(1)	「さいたま緑のトラスト保全地」ボランティア登録者数	0人
(2)		
(3)		
(4)		

目標値への推移	平成27年度実績	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度実績	目標(平成31年度)
(1)	20人	36人	43人		50人
(2)					
(3)					
(4)					

行政評価表(事業評価一覧)合計	当初予算額	決算額 (単位:千円)				
		決算合計	国・県補助	地方債	その他特定財源	一般財源
	4,167	3,616	0	0	124	3,492

今年度の施策達成度	A	A 施策が既に完了した。見直しや改善を行い最善に近い。(進捗率71~100%)
		B 施策の見直し、改善等の検討余地がある。(進捗率31~70%)
		C 施策を検討したが効果が上がらない。遅れている。未実施。(進捗率0~30%)
施策達成度の理由(施策に対する今年度の実績及び効果)	<p>・緑地の保全事業について</p> <p>①保存樹林地権者の理解が得られ、指定地の維持管理を促進した。</p> <p>②バラ栽培講習会を実施した。</p>	

施策を取り巻く環境の変化について	保存樹林地の指定継続がなされたが、樹林地の管理が年々難しくなっている。
住民ニーズの変化について	町内にトラスト保全第13号地が指定されて、トラスト地内での自然観察を通して、町民が自然の大切さを学んでいる。
展開した事業は適切であったか	バラまつりにおいて、マスターズが実施している栽培相談会やバラ園ガイドツアーは好評で、マスターズの活動は活発に行われていた。
施策を達成するうえでの障害について	現マスターズの高齢化、バラ栽培講習会受講希望者の減少傾向

次年度以降における施策の具体的な方向性	トラスト地内のさくら並木の保全及び維持管理 バラ栽培講習会の対象者の検討
---------------------	---

第6次行政改革大綱に基づく取組の進捗状況	バラマスターズによるポータルサイトいなナビでの情報発信によって、バラ園の魅力がPRできた。また、トラスト13号地の会が、活動状況を発信することによって、緑化保全に寄与した。
----------------------	--

# 平成29年度 行政評価表

担当課	都市計画課
章名	第4章 緑あふれるにぎわいのあるまちに暮らす
節名	第3節 良好な市街地の形成
施策名	1. 計画的な土地利用の促進

施策の内容	目指す姿	駅などを中心とした地域特性を活かした魅力とにぎわいのある拠点づくりが進むとともに、安全で快適な市街地の形成が図られています。また、誰もが町内を円滑に移動できる道路網が整備されています。
	現状と課題	本町では、土地区画整理事業の実施等により、良好な市街地の拡大が図られてきています。各地域の特性に応じた商業機能の充実や、にぎわい・交流を生み出す機能の充実など活性化させていく必要があります。また、自然と調和したまちづくりを進め、緑あふれる景観づくりに取り組んでいく必要があります。 本町の既成市街地では、耐震性が低く老朽化した家屋が見られます。近い将来、東京湾北部地震など大規模な地震が起こる可能性が高く、公共建築物や民間建築物の耐震化を加速させ、安心・安全な市街地の形成を図る必要があります。 町道については、狭あい部分の拡幅など整備を進めていますが、今後は維持管理費用が膨らむものと予想され、安全で良好な状態を長期的に維持できるよう適切な維持管理が必要です。

まちづくり目標値	指標名		現状(平成25年度)
	(1)		
	(2)		
	(3)		
	(4)		

目標値への推移	平成27年度実績	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度実績	目標(平成31年度)
	(1)				
	(2)				
	(3)				
	(4)				

行政評価表(事業評価一覧)合計	当初予算額	決算額 (単位:千円)				
		決算合計	国・県補助	地方債	その他特定財源	一般財源
	0	0	0	0	0	0

今年度の施策達成度	B	A	施策が既に完了した。見直しや改善を行い最善に近い。(進捗率71~100%)
		B	施策の見直し、改善等の検討余地がある。(進捗率31~70%)
		C	施策を検討したが効果が上がらない。遅れている。未実施。(進捗率0~30%)
施策達成度の理由(施策に対する今年度の実績及び効果)		平成27年度に策定した新たな『伊奈町都市計画マスタープラン』で定めた方針に従い、長期的な視野に立ったまちづくりを推進するとともに、各種施策・事業等において目標の実現に努めた。	

施策実現のための課題	施策を取り巻く環境の変化について	伊奈特定区画整理事業の完了や伊奈中部特定区画整理事業の進捗による都市基盤の進展に伴い、よりいっそうの均衡あるまちづくりを進める必要がある。また、将来的には人口減少が懸念されていることを踏まえ、財政面や優先度等も考慮しながら施策を推進することが求められている。
	住民ニーズの変化について	人口増加に伴う都市機能の拡充が求められており、多種多様な土地利用について要望がある。
	展開した事業は適切であったか	策定された計画に基づき、まちづくりが推進されたことにより、人口減少と言われる時代の中、当町は僅かではあるが人口の増加が続いている。
	施策を達成するうえでの障害について	都市計画の実現には多大な費用や時間を必要とするが、既存施設の維持管理に多額の費用がかかることが見込まれるため、現状の伊奈町の財政状況に鑑みると、ハード面・ソフト面の整備については、いずれも相当の期間を要することが想定される。

次年度以降における施策の具体的な方向性	引き続き『伊奈町都市計画マスタープラン』を推進するとともに、時代の変化に伴い多様化する住民の要望も注視しつつ、目標の実現を目指して各種施策等を推進する。
---------------------	--

第6次行政改革大綱に基づく取組の進捗状況	都市計画の基本的な方針を踏まえ、長期的な視野に立ったまちづくりの推進を図ることができる。
----------------------	--

# 平成29年度 行政評価表

担当課	都市計画課
章名	第4章 緑あふれるにぎわいのあるまちに暮らす
節名	第3節 良好な市街地の形成
施策名	2. 魅力的な市街地の形成

施策の内容	目指す姿	駅などを中心とした地域特性を活かした魅力とにぎわいのある拠点づくりが進むとともに、安全で快適な市街地の形成が図られています。また、誰もが町内を円滑に移動できる道路網が整備されています。
	現状と課題	本町では、土地区画整理事業の実施等により、良好な市街地の拡大が図られてきています。各地域の特性に応じた商業機能の充実や、にぎわい・交流を生み出す機能の充実など活性化させていく必要があります。また、自然と調和したまちづくりを進め、緑あふれる景観づくりに取り組んでいく必要があります。 本町の既成市街地では、耐震性が低く老朽化した家屋が見られます。近い将来、東京湾北部地震など大規模な地震が起こる可能性が高く、公共建築物や民間建築物の耐震化を加速させ、安心・安全な市街地の形成を図る必要があります。 町道については、狭い部分の拡幅など整備を進めていますが、今後は維持管理費用が膨らむものと予想され、安全で良好な状態を長期的に維持できるよう適切な維持管理が必要です。

まちづくり目標値	指標名		現状(平成25年度)
	(1)		
	(2)		
	(3)		
	(4)		

目標値への推移	平成27年度実績	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度実績	目標(平成31年度)
	(1)				
	(2)				
	(3)				
	(4)				

行政評価表(事業評価一覧)合計	当初予算額	決算額 (単位:千円)				
		決算合計	国・県補助	地方債	その他特定財源	一般財源
	119,158	97,821	0	0	0	97,821

今年度の施策達成度	A	A	施策が既に完了した。見直しや改善を行い最善に近い。(進捗率71~100%)
		B	施策の見直し、改善等の検討余地がある。(進捗率31~70%)
		C	施策を検討したが効果が上がらない。遅れている。未実施。(進捗率0~30%)
施策達成度の理由(施策に対する今年度の実績及び効果)	換地処分までの課題となっている保留地の処分について、予定どおり行なうことができ当事業の推進を図ることができた。		

施策実現のための課題	施策を取り巻く環境の変化について	埼玉県施行による伊奈特定土地区画整理事業の完了や町施行による伊奈町中部特定土地区画整理事業の進捗に伴い、良好な市街地の都市基盤の形成が図られ、宅地化が進行している。
	住民ニーズの変化について	中部特定土地区画整理事業の早期完成を望む声が多く、町としても平成31年度末の換地処分に向け事業を推進している。
	展開した事業は適切であったか	当該区画整理事業を推進したことで、道路・公園・公共下水道等の一体的な整備とそれに伴う住環境の充実を図ることができた。また同時に、長年地元で培われてきた地域のコミュニティもそのまま生かされている。
	施策を達成するうえでの障害について	事業が長期化していることで、地権者の生活様式が変化し、さまざまな諸事情により保留地の売却が難しい状況にある。

次年度以降における施策の具体的な方向性	事業計画【施行期間 昭和62年9月から平成38年3月まで(清算期間含む)】に基づき、平成31年度末の換地処分に向け、保留地の処分等や換地計画の準備を計画的に進める。
---------------------	--

第6次行政改革大綱に基づく取組の進捗状況	平成31年度末の換地処分に向け、地権者が保留地を購入し易くするよう保留地処分に関する規則を一部改正し、保留地の売却に努めている。
----------------------	--

# 平成29年度 行政評価表

担当課	都市計画課
章名	第4章 緑あふれるにぎわいのあるまちに暮らす
節名	第3節 良好な市街地の形成
施策名	3. 安心・安全な市街地の形成

施策の内容	目指す姿	駅などを中心とした地域特性を活かした魅力とにぎわいのある拠点づくりが進むとともに、安全で快適な市街地の形成が図られています。また、誰もが町内を円滑に移動できる道路網が整備されています。
	現状と課題	本町では、土地区画整理事業の実施等により、良好な市街地の拡大が図られてきています。各地域の特性に応じた商業機能の充実や、にぎわい・交流を生み出す機能の充実など活性化させていく必要があります。また、自然と調和したまちづくりを進め、緑あふれる景観づくりに取り組んでいく必要があります。 本町の既成市街地では、耐震性が低く老朽化した家屋が見られます。近い将来、東京湾北部地震など大規模な地震が起こる可能性が高く、公共建築物や民間建築物の耐震化を加速させ、安心・安全な市街地の形成を図る必要があります。 町道については、狭い部分の拡幅など整備を進めていますが、今後は維持管理費用が膨らむものと予想され、安全で良好な状態を長期的に維持できるよう適切な維持管理が必要です。

まちづくり目標値	指標名		現状(平成25年度)
	(1)	住宅の耐震化率	81%
(2)			
(3)			
(4)			

目標値への推移	平成27年度実績	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度実績	目標(平成31年度)
	(1)	82%	82%	83%	
(2)					
(3)					
(4)					

行政評価表(事業評価一覧)合計	当初予算額	決算額 (単位:千円)				
		決算合計	国・県補助	地方債	その他特定財源	一般財源
	1,800	462	217	0	0	245

今年度の施策達成度	A	A	施策が既に完了した。見直しや改善を行い最善に近い。(進捗率71~100%)
		B	施策の見直し、改善等の検討余地がある。(進捗率31~70%)
		C	施策を検討したが効果が上がらない。遅れている。未実施。(進捗率0~30%)
施策達成度の理由(施策に対する今年度の実績及び効果)		住民が安心して暮らせる住宅の確保を目的とし、木造住宅の耐震診断・改修に対する補助を実施したが、申請件数が目標に達せず、また、予算額に対する執行額の割合が約26%であった。 ・耐震診断・・・2件(目標件数4件) ・耐震改修・・・1件(目標件数4件) 住宅の新築や耐震基準を満たさない家屋の建て替えが進んだことにより、耐震基準を満たす家屋が増加したことから、耐震化率としては僅かではあるが向上している。	

施策実現のための課題	施策を取り巻く環境の変化について	伊奈町に最も大きな被害をもたらす、最大震度7を想定する「関東平野北西縁断層帯地震」は今後30年以内の発生確率は最大で0.008%とされているが、「茨城県南部地震」及び「東京湾北部地震」でM7級の発生確率は70%とされている。(出典:埼玉県地震被害想定調査)また、国内各地において、近年、大規模な災害を伴う地震が発生している。
	住民ニーズの変化について	国内において続発する大規模地震の報道等に接することにより、家屋倒壊等の危険性を改めて認識する機会が増加している。
	展開した事業は適切であったか	家屋の耐震改修を促進することにより、倒壊・損壊等を未然に防ぐことで、町民の生命・財産を守ることができる。
	施策を達成するうえでの障害について	地震による家屋の倒壊・損壊に対する危機意識が不足しているため、耐震化の必要性・重要性を啓発していく必要があることから、広報やホームページへの掲載以外の方法として、町民に対して耐震化をPRするため全戸回覧を実施する。

次年度以降における施策の具体的な方向性	申請件数が目標に達していないことから、利用促進を図るため、耐震診断や改修の必要性、制度利用のメリットなど、町民への周知の方法を検討したい。
---------------------	---

第6次行政改革大綱に基づく取組の進捗状況	安心・安全なまちづくりを促進するため、引き続き住宅の耐震診断・改修を推進し、町民の生命・財産を保護する。
----------------------	--